

ゲートキーパー養成事業【群馬県】

(実施主体) 群馬県

(基金事業メニュー) 人材養成事業

(実施期間) 平成 21 年度～24 年度

(実績額) 平成 23 年度 1,882 千円

【事業の背景・必要性・目的】

平成 20 年度に自殺危機初期介入スキル研究会の自殺危機初期介入スキルワークショップ（以下「ワークショップ」とする。）を受講した保健師が、平成 21 年度から 3 年計画で、所属する保健福祉事務所管内の保健師及び高齢者福祉関係職員を対象にワークショップによるゲートキーパー養成研修を開催したことをきっかけに、こころの健康センター等の保健師がワークショップ及び同研究会のリーダー養成研修を受講し、平成 22 年度は群馬県の東毛地域及びこころの健康センターでもワークショップによる研修が開催された。それまでのゲートキーパー養成研修は、民生委員や保健福祉等の専門職を対象にうつ病の理解等の講義を中心とした研修であり、ワークショップ及びリーダー養成研修を受講した保健師を中心に今後のゲートキーパー養成研修のあり方を検討する必要性があげられた。

それを受けて検討した結果、本県のゲートキーパー養成研修について、①保健師等の専門職を対象にワークショップによる研修と、②民生委員等を対象にした群馬県版ゲートキーパー手帳の作成及び手帳を活用したゲートキーパー養成講座の 2 つの体系化を図り、人材を育成することになった。

【事業の内容】

① ワorkshopによる研修

平成 22 年度のこころの健康センターの研修を次年度の取組のリーダー養成に位置づけ、県の保健師の受講を優先した。平成 23 年度のこころの健康センターの研修は、保健福祉事務所の開催計画がない地域をカバーする形で会場を選定し、地域的に県内全域の保健師が受講しやすいようにした。また、開催地の保健福祉事務所の協力を得ることとした。

ワークショップは、「導入」、「自殺に関するさまざまな考え、信念」、「サインに気づく」、「理解を深め、生きる理由を探る」、「危険性をはかる」、「安全確保、支える仲間へつなげる、フォローアップ」、「ふりかえり」の 7 つのセッションから構成され、スキルを身につけるための参加型の研修であったため、保健福祉等活動の現場で相談に従事できることを目的に専門職を対象にし、また、県の保健師には地域の体制づくりのリーダーとして活動できるために、リーダー養成の位置づけを行った。

② 群馬県版ゲートキーパー手帳作成及び手帳活用による研修

平成 22 年度に、こころの健康センターにおいて、ゲートキーパー手帳作成検討会を開催し、研修テキストとしての群馬県版ゲートキーパー手帳を作成した。また、県内の全地域で手帳活用による研修が普及されるために、各保健福祉事務所の保健師の誰もが講師になることができるように、平成 23 年度下期に指導者用テキストを作成した。

早期対応の中心的役割を果たす人材を養成する取組

〔事業実施に当たっての運営体制等〕

テキスト作成という実務的、技術的な内容については、こころの健康センターが担い、各保健福祉事務所が協力する体制をとった。手帳活用による研修の企画や実施については、こころの健康センター中心から、保健福祉事務所へシフトする体制をとった。ワークショップによる研修については、保健福祉事務所とこころの健康センターが開催し、対象地域が優先ではあるが地域を超えて受講可能な体制としている。

〔事業の成果、工夫をした点、その他特筆すべき点〕

一人の保健師がワークショップを受講したことをきっかけに、知識の伝達からスキル習得の演習を取り入れた研修を県内全域に広げることができた。保健師等の専門職がスキルを学ぶことにより、自殺問題を扱う不安を少なくし、相談に従事する準備となり、地域の自殺対策を進める力になったと思われる。

また、群馬県版ゲートキーパー手帳の作成及び手帳活用による研修の取組へと発展させることができたことは、人材養成という地域の財産を増やすことにつながり、また、指導者用テキストを作成したことにより、研修の質の確保とともに、継続した研修の取組につながることとなり、このことは大きな成果と考える。平成23年度は、各保健福祉事務所の努力により市町村との関係の中での実施であったが、平成24年度は、群馬県民生委員児童委員協議会及び各市町村に県からも働きかけを行っていく予定である。



群馬県版ゲートキーパー手帳
ゲートキーパー手帳指導者用テキスト

(問合せ先) 群馬県健康福祉部障害政策課
TEL : 027-226-2640